

愛知県内のレッドデータブック掲載種の分布状況

○井城雅夫

1. はじめに

野生動植物を取り巻く環境は、開発等による土地の改変、里山に代表されるような人と自然とのかかわり方の変化、外来種の侵入、シカの食害など様々な要因により変化しており、その変化により絶滅、あるいは絶滅のおそれのある種が多数存在しているとされている。

近年、生物種の絶滅が問題視され、絶滅のおそれのある種についての資料集としてレッドデータブックが世界レベル、国レベル、都道府県レベル等で作成されている。愛知県でもこれまでにレッドデータブックを平成13年に植物編、平成14年に動物編を作成し、平成21年に改訂版として植物編と動物編を作成し、平成27年に植物と動物のレッドリストの改訂を行った。

これまでレッドデータブックを作成した過程で、専門家等から提供されたレッドデータブック掲載種の生育生息情報や愛知の昆虫などの県内で比較的広範囲に行われた様々な調査と、平成27年に改訂したレッドリストをもとに、レッドデータブック掲載種の分布状況について調べた。

2. 調査対象分類群と方法

対象とした分類群は、レッドデータブックで対象とされている維管束植物、蘚類、苔類、哺乳類、鳥類、両生類、は虫類、淡水魚類、昆虫類、クモ類、貝類である。レッドデータブックに掲載されている種は、絶滅のおそれが高い順に、絶滅危惧ⅠA類、絶滅危惧ⅠB類、絶滅危惧Ⅱ類、準絶滅危惧のランク分けがされており、それぞれの種の評価は「レッドリストあいち2015」の評価を用いた。

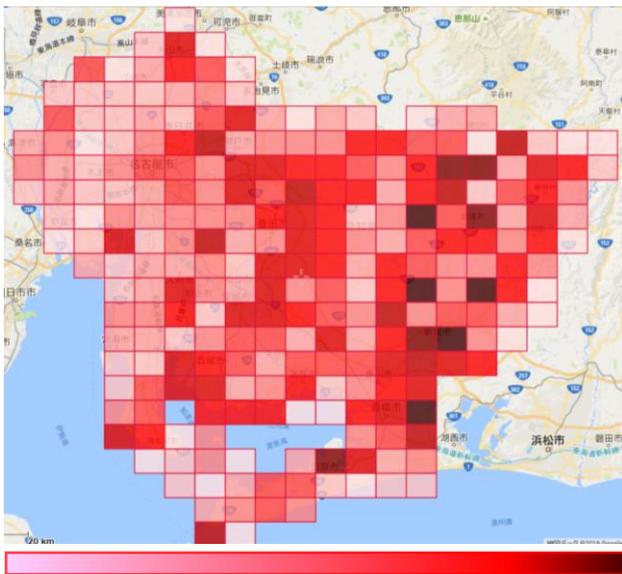
収集したレッドデータブック掲載種の生息生育情報のデータをマイクロソフト社のエクセルに格納しデータベースを作成し、データベースの検索結果を愛知県統合型地理情報システムで地図上に表示し解析ができるようにした。

作成したデータベースを用いてメッシュごとのレッドデータブック掲載種をそのランクごとに重み付けをして集計した結果を、5倍メッシュ（約5km四方）や、詳細な位置情報がある情報については3次メッシュ（約1km四方）ごとに表示して、レッドデータブック掲載種の分布状況を調べた。また、環境省が行った自然環境保全基礎調査植生調査についても、合わせて愛知県統合型地理情報システムに取り込み、重ね合わせて解析を行った。

3. 結果と考察

面の木峠や鳳来寺山等、三河の山間地にレッドデータブック掲載種の多く確認されるメッシュが、比較的狭い範囲に孤立して確認される傾向がみられた（図1、図2）。都市に残された緑地や都市近傍の森林は、レッドデータブック掲載種の記録が比較的多くみられた（図2、図3）。

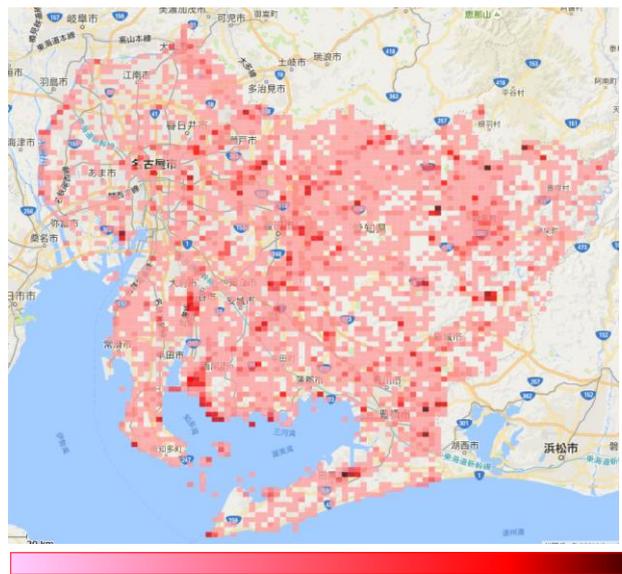
レッドデータブック掲載種の情報を収集し、GISにすることは、レッドデータブック掲載種の保全や土地利用を検討する際に有用になると考えられた。



1ポイント 141ポイント以上

図1 5倍メッシュごとのレッドデータブック掲載種の分布状況

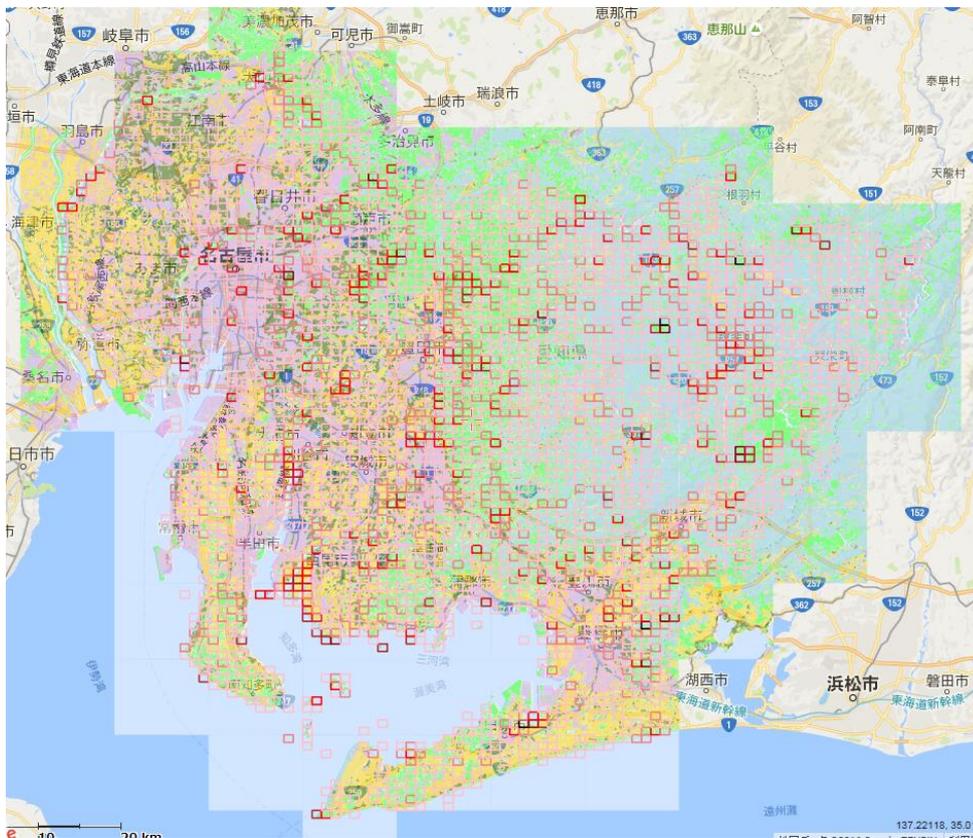
レッドリストのランクごとに重み付けをした



1ポイント 50ポイント以上

図2 3次メッシュごとのレッドデータブック掲載種の分布状況

レッドリストのランクごとに重み付けをした



- 天然林
- 人工林
- 農地
- 市街地、工場地帯等
- 緑の多い住宅地、公園等

1ポイント 5ポイント 10ポイント 15ポイント 20ポイント 30ポイント 40ポイント 50ポイント以上

図3 3次メッシュごとのレッドデータブック掲載種の分布状況と植生図

* 図1から図3は愛知県統合地理情報システムを用いて作成した